

令和4年度 第1回 岸和田市・泉大津市・貝塚市・和泉市・高石市・忠岡町  
 社会福祉活動支援地域協議会 会議録【議事要旨】

日 時	令和4年6月3日(金) 午前10時00分～午後0時10分	
場 所	岸和田市立福祉総合センター 3階 大会議室	
出席委員	16名	
欠席委員	4名	
事務局	岸和田市	福祉部長、福祉政策課長
	泉大津市	福祉政策課 課長補佐
	貝塚市	高齢介護課長
	和泉市	福祉総務課 課長補佐
	高石市	社会福祉課 主任
	忠岡町	地域福祉課長
	5市1町 広域事業者指導課	広域事業者指導課長、調整参事、他職員4名
傍聴者	なし	
次 第	1. 開 会 (1) 新任委員への委嘱状交付 (2) 岸和田市福祉部長の挨拶 (3) 委員の紹介 (4) 報告事項・確認事項 (5) 座長・副座長の選出 2. 案 件 (1) 各市町社会福祉協議会における「地域における公益的な取組等」実施状況の報告 (2) 地域の福祉課題に関すること ・「乳幼児すこやか見守り支援事業」 ・「障がい者の力を生かす」 (3) その他 3. 閉 会	
配布資料	1. 高石市乳幼児すこやか見守り支援事業について 2. 和泉市就労支援部会の取り組み	

## 【議事】

(事務局議事進行)

### 1. 開 会

### 2. 案 件

#### (1) 各市町社会福祉協議会における「地域における公益的な取組等」実施状況の報告

[座 長] 事務局からの説明にもありましたとおり、社会福祉法人において、「地域における公益的な取組」の実施は責務です。地域でどのような取組が行われているかの情報共有にもなりますので、各社会福祉協議会の委員の皆様から、昨年度実施した取組について、おひとり3分程度で、簡単にご報告いただければと思います。

[委 員] コロナの影響もあり、生活困窮者からの相談が多くありました。失業や収入減により家賃が払えないといった深刻な状況もあり、一時的な生活の場の提供や食糧支援等を実施しました。コロナ禍という特徴的な一年でした。

[委 員] コロナ禍の中でさまざまな活動の制限があるなか、地域の福祉委員や自治会と話をするなかで集まる場所がないという意見があり、大阪府の地域福祉振興助成金を活用し、「どこでもコミュニティ」という事業を始めました。外出自粛で人と会う機会が減少し、孤立し孤独となる方の支援が課題となっています。公園、神社など活動場所を探して、コミュニケーションがとれるような場を提供し、椅子やテントなどの必要な物品を貸し出しました。

[委 員] コロナ禍のなか、思うような地域活動ができていないのが実情です。徐々に活動は再開しており、「地域サロン」、「ふれあい喫茶」、「見守り活動」を行いました。あわせて、生活困窮者に対し貸付や職業訓練等を行いました。大阪府の「レスキュー事業」のような、独自の取り組みも行っていきたいと考えているところです。なかなか活動できない中で、地域の方のモチベーションをどのように保っていくかという課題もあると感じています。

[委 員] コロナ禍の中、自分から助けてほしいという声を上げやすい環境をつくらなければということで「ローラー作戦」を実施しました。高齢、障害、子ども、あらゆる環境における相談を受け付け、相談窓口を案内するチラシ配布も行いました。

また、サロンが開催できないので、タブレットを使用したオンラインでの見守り活動を実施しました。いろいろ工夫し、少しでも人と人がつながれるようにという想いで行いました。

[委 員] ボランティアの活動が活発に行われているということもあり、ボランティアセンターに対する備品購入補助、フードバンク(子ども食堂)に対する調理器具の購入補助を行いました。「孤立ゼロプロジェクト」として、誰も取り残さない市を目指し、つながりのない世帯約1万5000世帯を対象に訪問調査し、昨年度154件の課題を発見しました。地域で支え合う仕組みづくりの実現のために実施し、顔が見える関係の構築、家族の相談のきっかけづくりなど一定の成果をあげたと考えています。課題として、自ら助けを求めない世帯へのアプローチ方法、周囲が気になっているが支援に至っていない

世帯への対応があります。今年度も引き続きつながりを構築していきます。

[委員] 令和2年度に大阪府社協が実施している、外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業交付金を活用し、高齢者、障がい者の安否確認のためのチラシ2000枚を作成し、配布しました。また、戸別訪問でマスクや消毒液を配布し、困りごとを伺い、支援につなげる活動を行いました。

令和3年度は、弁当や物品を集会所等に取りにきていただいた方に対する見守り確認を、社協、民生委員、ボランティアの協力のもと行いました。また、子ども食堂が1箇所から4箇所に増え、地域の方や事業者からいただいた食品や物品を、社協を通じて提供するなどの活動支援を行いました。

買い物支援事業として、高齢者の方をスーパーまで送迎しました。希望者も増加しているため、今後は活動回数を増やしていく予定です。

[座長] ありがとうございます。お話を聞いて感じましたのは、多くの所で孤立支援が色々な方法で行われていたということでした。

また、「ローラー作戦」「どこでもコミュニティ」のお話の中にあつた、公園や神社などでテントを立てて気軽に要望を受け付けておられたことを聞き、私が2011年に東日本大震災の支援に行っていた時に、必要に迫られてやったテントを活用しての「青空サロン」を思い出しました。これらの活動は、仕掛けをするのは我々ですが、その活動を広めるのは住民さんと言う構図がやはり良いのだろうと感じました。

そして、コロナ感染症まん延時であっても、被災後であっても、集いの場の重要性は同じだと感じました。

## (2) 地域の福祉課題に関すること

### ・「乳幼児すこやか見守り支援事業」～高石市社会福祉協議会～

[座長] 続いて、「地域の福祉課題に関すること」についてです。

地域の福祉課題解消に向けて行っている取組について、事例を交えてご説明いただきます。

まずは、高石市社会福祉協議会の●●様、地域ボランティアグループの●●様より、「乳幼児すこやか見守り支援事業」についてお話しいただき、討議したいと思います。

[説明者] 高石市社会福祉協議会の●●と申します。

[説明者] 高石市のボランティアグループの●●と申します。

[説明者] 「乳幼児すこやか見守り支援事業」についてご説明します。簡単にいうと、乳幼児世帯に対する見守り訪問事業であり、高石市から受託して実施しています。高石市が行う「こんにちは赤ちゃん訪問事業」という生後2か月の乳幼児対象に市の職員と助産師が訪問している事業がありますが、その延長というかたちで、生後5か月から12か月までの世帯を対象に、養成研修を受講済の地域ボランティアすこやか見守りサポーターが実施しています。

コロナ禍が続き、保護者の方と地域とのつながりが希薄化している現状があり、孤

立化の防止として実施しています。訪問時に、1万円の子ども用品に使用できる商品券をお渡しし、経済的な支援も同時に行っています。

保護者の方が、相談ごとがあってもわざわざ市役所や社協まで行って相談しないという人も年々増えているという状況や、他市から転入される方も多く地域とのつながりが無いこと、外国籍で日本語が話せない方への子育てサポートといったことが事業実施の背景です。

こちらから仕掛けるアウトリーチ型支援と経済支援を大きな柱としています。高石市において年間で出生する乳幼児は約470人であり、生後5か月から12か月までの間に、5か月時、8か月時、11か月時の合計3回訪問していきます。この中で困りごとや育児に対する悩みを聞き取り、各機関と連携して支援しています。

経済的負担の軽減への支援については、先ほど申し上げた商品券の配布に加え、子どもの名前入りの積み木と手作りのスタイを贈呈しています。訪問につながるツールとしての側面もあり活用しています。

加えて、市内での子育て情報も提供し、乳幼児世帯の健やかな成長につなげています。

高石市では、以前は生後10か月時に集団健診を実施していましたが、2年前から個別健診となり、保健師と直接会える機会が減ってしまったことも実施の経緯としてあります。この事業がなければ、最後に会えるのは生後4か月であり、そこから1歳半までは空白の期間となっていました。その期間を埋めるため地域ボランティアを活用し、実施しています。

訪問要員のすこやか見守りサポーターは現在48人在籍し、月の訪問件数は、100～120件程度であり、サポーター2人1組で訪問しています。アポなしで訪問しているので、父親であったり、祖父母であったり、普段、市と関わりのない方が対応していただくこともあり、良い機会となっています。

ボランティアグループについてですが、見守り訪問部門とスタイ製作部門を創設し、グループ全体では、65名在籍しています。ボランティアの中には、民生委員、助産師、看護師、保育士等さまざまな経験者の方がいらっしゃいます。ボランティアの活躍場所、居場所も生み出せていると思っています。

前年度活動実績については、5か月世帯272件、8か月世帯156件、12か月世帯426件を含めて計約1300件でした。気になる家庭や市に相談したいといった家庭については104件ありました。そういった家庭については、保健師や助産師と相談し、電話や訪問を行い対応しました。その事例として、「子どもの発達や体調について」、「離乳食について」、「保護者や家族の体調、精神面について」、「コロナ禍での生活、就労について」、「子供の遊び場について」、「兄弟姉妹の発達のことについて」などがございました。

事業の成果については、待ちの体制であったらおそらく拾えなかった相談等をこの事業によって支援につなげることができたと感じています。1回目ではなく、2回目3回目の訪問の際に相談いただくこともあり、回数を重ねることもよかったのではない

かと思えます。

ボランティアの半数ほどが、新規でボランティア活動に参加した方でした。新しい担い手の確保が課題でしたが、この事業で創出できたことも大きな収穫でした。本日来ていただいている●●さんも、新規ボランティアの一人です。参加した経緯や実際に活動してみたの感想などお話を伺いたいと思います。

[説明者] 私は、本格的なボランティア活動自体初めてでした。子どもがそれぞれ成人し、子育てが落ち着いてきました。私にとって高石市は、元々縁もゆかりもなく、子どもが産まれることを機に転入してきました。

近所にあった公立幼稚園の入園前の子育て支援教室に参加させていただき、地域の方や子育ての先輩方にたいへんお世話になりました。地域や周りの方の協力で子育てができた実感しています。

現在は、小学校の学童保育の指導員をしています。児童と接していると家庭の様子が垣間見える職場でもあります。そんな中、高石市の広報にこのすこやか見守りサポーターの募集を見つけました。私自身、ボランティア精神が強いとかそんなことは全くないのですが、見守り訪問の研修を受けてみたいなどと思い、そしてもしかしたら、今関わっている児童のご家庭にも訪問し、様子を伺えるのではないかと思い、それがきっかけで応募しました。

活動についてですが、初めの頃でまだ活動が広まってない頃は、訪問した際に出てきていただくのにも苦労しました。地道に説明し、理解を得て、実績をつくることで周知され、スムーズに訪問できるようになっていきました。「悩みを聞いてくれて楽になった」や、「支援センターは誰でも利用していいと知らなかったので今度行ってみます」と言っていた時は、この活動をやっていてよかったという気持ちになりました。

訪問した先のお子さんが、成長し、学童保育を利用するようになった時のことを想像し、それを楽しみに現在活動に取り組んでいるところです。

[説明者] 専門職の人が訪問するのと違い、ボランティアが訪問することで、より気軽に相談できる環境となっているのかなと思います。

今後の展開としまして、新たに参加していただいたボランティアの担い手を他の事業でも連携できればと考えています。また、支援者の活動の場を拡充し、地域の子育てサロン等での相談にも対応していきます。そして、対象を5か月から12か月だけにとどまらず、それ以降の世代にも支援できる体制を構築し、つながっていければと考えています。

[座長] ありがとうございます。この件に関し、委員の皆様で何かご意見等はございますか。

[委員] アポなしで訪問というところに驚きました。私は民生委員をしておりますが、「こんにちは赤ちゃん事業」の一環で、電話で事前連絡をしたうえで訪問を行います。そもそも電話に出ていただけなかったり、つながったとしても訪問を断られたりということが非常に多い現状です。どのようなアプローチや工夫をしているのかお聞きしたいです。

[説明者] 初めの頃は、訪問販売ではないかと疑われたりしたこともありました。出生の手続き時、生後2か月の赤ちゃん訪問、生後4か月の健診の際に、市の方から、生後5か月以降訪問があるとたびたび案内しています。それが周知につながっていると思います。

[座長] 早くから、広報を徹底して行っていることが良いのだと思いました。

・「障がい者の力を生かす」～和泉市社会福祉協議会～

[座長] 続きまして、和泉市社会福祉協議会●●委員より、「障がい者の力を生かす」についてお話しいただき、討議したいと思います。

[委員] 全国的に高齢化社会への対応の取り組みが行われているところですが、和泉市の高齢化率は国や大阪府に比べると25%と低いですが、町別にみると、40%を超える地域が多くあります。そのため、地域を支えるシステムの構築を進めています。その支え合いシステムを担う存在として、障がい者に目を向けてはどうかというのが今回のテーマです。

和泉市の活動例を紹介します。団地など的高齢化が進んでいる地域では、住人による清掃などの定例活動に参加できないといった事態が生じており、一部地域では、障がい者の就労事業所がそれらを請け負っています。

市内でポスティング作業を実施している就労事業所が、高齢者の見守りネットワーク事業を行っています。高齢者の見守りネットワーク事業とは、民間事業者等と和泉市が高齢者の見守りに関する協定を締結し、連携することにより、通常業務の中で、高齢者になんらかの異変が生じた際に市へ通報し、早期に必要な支援を行うことを目的とする事業です。

「障がい者＝支援を受ける人」だけではなく、「障がい者＝地域福祉の担い手」と考えてみてはどうでしょうか。障がい者が地域で経済的にも自立して暮らしていくために、一般就労が可能な方へはそのための支援を、一般就労が困難な方には就労継続支援B型事業所等における工賃水準を上げる取り組みが必要です。

和泉市では、障がい者が笑顔で安心して暮らせる町を目指して、各種障がい者施策の一つとして、障がい者の社会的、経済的自立に向けて、工賃水準向上に向けた取り組みを進めています。

障がい者基幹相談支援センターが運営する就労支援部会で就労継続支援B型事業所の作業内容や授産金を示したパンフレットを配布しておりますのでご覧ください。なお、こちらは作成中のものであることご了承ください。食品、手芸品、雑貨、作業・役務など、各作業所が行っている活動や単価が掲載されています。単価に対する質がわかるように工夫しています。どうしても、障がい者が行うので、質は高くないのではという先入観がありますが、質を上げ、工賃も向上させていこうという気概のもと取り組んでいます。市内企業や町内会に呼びかけるなど、広く周知し、障がい者の地域貢献と社会参加ができる仕組みを構築しようと考えています。

また、そのためには、地域住民の障がい者に対する理解を深める取り組みが必要であると考え、鳥取県発祥の「あいサポート運動」という障がい者への理解を深める取り組み

みを進めています。令和2年度より、あいサポーター養成講座を実施しています。令和3年度はサポーター研修を年12回開催し、サポーター数は734人、メッセンジャー数は59人です。メッセンジャーとは、認知症サポーター養成講座の時に、講師を務めていただく方と同様の役割を担っていただいています。

和泉市民児協の障害福祉部会が主催した「障がい者への理解を深める勉強会」に先日参加しました。その中で、障がい者に関わる方から見える地域課題のお話で、高齢化が進む農村地域において、収穫や出荷など若い力や人手を要す作業の担い手として、障がい者やひきこもりなど就労につながっていない方を採用できないかといった意見があり、今後このような活躍の場をもっと地域に広めていければと思います。

和泉市では、障がい者への理解を進めることがまだまだ課題となっています。各市において、障がい者への取り組みや障がい者が地域社会の担い手となるためにどのように工夫されているかご意見等伺えればと思っています。よろしくをお願いします。

[座長] ありがとうございます。委員の皆様、只今の件につきまして、ご意見等がございましたら、よろしくをお願いします。

[委員] かつて市の障害福祉関連の部署に在籍していた頃の経験からですが、当時、大阪府の工賃は全国でワースト2位でした。理由として、大阪府においては障がい者に発注した際に、障がい者が行うという理由でその工賃を引き下げにいく傾向があり、それが根付いていた印象です。工賃を上げるということは大変な苦労があると想像します。

この共同受注グループとしての取り組みはいつから始まっているのですか。

[委員] 共同受注グループとして、まだ市域では取り組めていません。就労支援部会の中で手を挙げていただいた方で進めているのが現状です。今後は、共同受注グループの中でリーダーを決めて進めていきたいと考えています。

[委員] 共同受注グループがない市はまだ多いのが現状であるが、こういった組織がないと発注元は、個別に事業内容から調べる必要があるので非常に手間がかかり大変です。共同受注グループがあれば、発注元はそこに問い合わせすれば、コーディネートしてくれるので発注が容易になる。非常に良い取り組みであると思います。

[座長] ご意見ありがとうございます。

[座長] では、その他の委員の皆様、本日の案件全体で構いませんので何かご意見等ごさいますでしょうか。

[委員] 高齢者も障がい者も子どもも社会にいて、共通点はあるが、各分野の専門職だけではうまくいかないのだと感じます。

また、高齢者の見守りに障がい者がとか、子どもの見守りに高齢者がというのは、正直それで大丈夫なのかなと思うところもあります。もっと全体で考えなければならぬこともあるのではないかと感じました。良い勉強になりました。ありがとうございます。

[委員] 高石市社協のお話の中で、積極的にアウトリーチ型で、アポを取らず、普段の生活に入り込む形で実施することが大切であると感じました。どうしても無理なものは無理

なので、なかなか対応していただけない家庭をどうするかよりは、関わっていただけている方により注力し、問題の種をしっかりと拾っていくことも大切だと思いました。

和泉市社協の障がい者就労への取り組みについては、障がい者就労事業所で働いている方のみが対象であると思います。デイケア等のサービスを受けている方で、日中に手が空いている時間があるが、サービス利用中は他のことはできない決まりがあるのが現状です。今後、そういった時間を有効活用できる仕組みができ、改善されていけば良いなと思っています。

[委員] 老人クラブの活動もコロナ禍で大変な状況でございました。障がい者への取り組みはなかなか難しいと思いますが、できる限り協力してやっていきたいと思っています。

[委員] 私は、障がい児の家族の方と接していますが、1歳半ぐらいから子どもの成長で気になるところが出てきたりします。そんな時にこそ、私たちは寄り添っていききたいのですが、なかなかつながりが少なく、実際に会員も減ってきているところです。私のこれまでの経験やスキルをそのような方に少しでも伝えることができるよう、高石市社協の取り組みのように、今後も活動を頑張っていこうと思いました。

障がい者の就労について、やはりまだまだ工賃が低い印象を受けます。作業所としては、なんとか手隙の時間を無くしたいという考えがあるのだと思いますが、工賃が低くても受注している状況があり、ジレンマを感じています。そういったコーディネートしてくれる機関があれば良いなと共感しました。

[委員] 私には孫がいますが、コロナ禍以前は、子育てサロンに参加するような日々を送っていましたが、今は、感染対策のため家に閉じこもりがちになってしまっています。保健師の訪問がすごくうれしかったと聞いております。このように、つながりが減り、不安をかかえている方もたくさんいるかと思っていますので、高石市社協の取り組みは非常に有効で大切なものであると思います。

[委員] 和泉市では、4か月健診の際に民生委員が同行しています。その後をどうするかという意見は出ているところであり、高石市社協の取り組みは非常に参考になりました。

障がい者への取り組みについては、あいサポート運動には民生委員も参加させていただいています。民生委員は支援対象の方が多岐にわたりますが、実際は8～9割が高齢者関連です。お話を聞いて、障がい者や子どもへの取り組みをもっと充実させていかなければならないと思いました。

[委員] 貝塚市では、拡大ケア会議というものを定期的で開催しています。地域で困っている方の情報を共有して、どういうふうにアプローチするかといったことを検討し、支援につなげています。今日のお話を参考にしていきたいと思っています。

[委員] 現場と会議とでは違うところを感じます。ある障がい者の方で、職員の方は施設に入ってほしいと思うが、本人が拒否する場合もあり、拒否されるとどうにもできない。その一人のためにいろいろな人が介助するのを見てきた。障がい者に対する取り組みは難しいものです。

岸和田市民児協は子ども食堂の取り組みに力を入れており、子ども食堂を開設したい方に開設資金として10万円支給し、継続先には年間6万円支給することを実施して



います。令和4年度中に10箇所の開設ほどを目標にしています。

[委員] 子育て、高齢者、障がい者等さまざまな問題、市民が安心して過ごすことできる相談ができる場所を充実させていくことがすごく大切で、情報を共有し、みんなが一緒になって対策していくことが重要だと改めて感じました。

[座長] 多角的な方面からのご意見を多数いただきありがとうございました。このような形で皆様のご意見をいただくことにより、この地域の福祉課題について、今後の方向性など共通の認識を持つことが出来たのではないかと思います。

### 3. 閉 会

以上